ほっとサロン虹 通信

2026.9.18

ほっとサロン虹は、がん患者さんやご家族の皆様が病気や暮らしなど
気になること、相談したいことなど、お話ができる場です。

テーマ：

がんゲノム医療について学んでみよう

講師：がんゲノム外来医師
久山 彰一

記：医療社会事業専門員
浦川 弘美

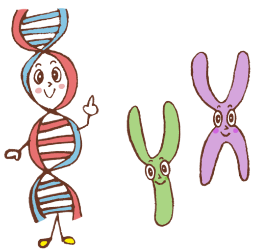
今回は、「がんゲノム医療について学んでみよう」をテーマに当院のがんゲノム医療外来を行っている久山医師が話されました。

ゲノムとは、遺伝子のことを言います。がんゲノム医療とは、がんの遺伝子情報に基づいて個別化された治療を行う医療のことです。具体的には、がんの組織を使って多数の遺伝子を同時に調べる「がん遺伝子パネル検査」を行い、一人ひとりの遺伝子の変化や生まれ持った遺伝子の違いを解析します。

この解析結果を基に、患者さんの体質や病状に合わせた薬剤を使用します。飲み薬での治療も多くなっており、点滴と比較すると患者さんの負担も楽になっているようです。「がんと分かったときからこのがんゲノム医療ができないのか？」と思われる方もいると思います。現在は保険診療では標準治療がない場合や標準治療が終了見込みの場合に行うことができるようになっています。



今後遺伝子に合った薬が多く開発されれば、がんと分かったときからがんゲノム医療が行えるようになってくる可能性もあるとのことでした。



実際に遺伝子に合った薬を使用した患者さんのCTなどの画像の紹介もあり、腫瘍が縮小していく経過を見ることができました。使用すれば誰でも必ず効果があるわけではありませんが、薬が合えば画像では見えないくらい病気が小さくなることもあるそうです。

また、がんになりやすい遺伝子を親から受け継いでいる方もいらっしゃいます。事前にその遺伝子を持っていると分かっている方は、検診をきちんと受けることで病気を早期発見することができます。しかし、中には知ることによってつらい思いをされる方もいます。そのため、がん遺伝子パネル検査を行う際は、親から子どもに伝わるがんになりやすい遺伝子が出た場合に知りたいか、意向を確認しているとのことでした。

がん遺伝子パネル検査は、現在はすべての方が行える検査ではありません。ご自身が保険診療で適応されるかは主治医にご相談ください。

次回は「化学療法の副作用対策について学んでみよう」をテーマに開催予定です。どなたでもお気軽にご参加ください。

独立行政法人 国立病院機構
岩国医療センター

【お問合せ先】 地域医療連携室 TEL 0827-35-5645